

JA 全農ちば 営農情報集

2024 年
4 月



今月の情報

1. 水稲 田植え前後の管理について
2. 園芸野菜 病害虫防除情報
3. 果樹（ナシ）病害虫防除情報

今月の気象（気象庁 3 / 3 0 発表 1 か月予報より）

4 月も、3 月から継続して気温が高くなり、特に前半はかなり高くなる予報となっています。害虫の増加のほか、作物生育の前進化や施設の温度管理にも留意しましょう。

【気温】



【降水量】



【日照時間】



■ : 低い ■ : 平年並み ■ : 高い

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稲 田植え前後の管理について

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

本年も稲作が始まり、代かきや育苗管理作業で忙しくなります。気象庁発表の1か月予報では、気温が平年よりも高めと予想されています。育苗中、急な温度変化による「ヤケ」等の発生の心配があります。特に被覆を新しく張り替えたハウスは注意が必要です。また、気候・気象の変化が極端化していますので、高温だけでなく突発的な低温にも注意しましょう。

2. 今後の育苗管理について

ハウス内温度は、日中 30℃以上・夜間 10℃以下にならないよう、ハウスの「換気」と「保温」に努めましょう。また、被覆を張り替えたハウスは、曇天続き後に晴天となった場合の温度管理に注意してください。ハウス内の温度が上昇してからでの換気では遅いため、高温が予想される日は早朝から換気を心がけましょう。

育苗期の気温が高く推移したときの注意点は以下のとおりです。

- (1) 苗の生育が早まり、本田の準備に追われて育苗管理が疎かになってしまう。
- (2) 老化苗・徒長苗になりやすい。
- (3) 老化苗・徒長苗を移植すると、活着不良や除草剤の薬害が出やすくなる。

3. 田植え時の初期害虫の防除について

初期害虫の種類と発生量を考慮した箱施薬剤選択が重要です。いもち病常発田や空散未実施地域には、殺虫殺菌混合剤を使用しましょう。薬剤の効果を高めるために、

- ① 1箱あたりの散布量 (50g) を必ず守る。
- ② 散布前に苗についた露を払い落とす。
- ③ 散布ムラに注意し、均一に散布する。
- ④ 散布後は手で苗を払い、薬剤を下に落とす。

の4点をしっかりと実施しましょう。

※昨年、イネドロオイムシ対策で箱施薬剤を使用したにも関わらず、食害されて葉が白くなってしまった圃場では必ず薬剤を変更してください。



イネドロオイムシ成虫・幼虫

- (1) イネドロオイムシの発生が・・・

多い水田 ⇒ フェルテラ箱粒剤・アドマイヤーC R箱粒剤など

少ない水田⇒ ワンリード箱粒剤 08・プリンス粒剤・パダン粒剤 4 など

- (2) 初期害虫+いもち病の常発田

ブーンパディート箱粒剤・デジタルコラトップアクタラ箱粒剤など

- (3) 初期害虫+いもち病・紋枯病の常発田

ブーンレパード箱粒剤・エバーゴルフオルテ箱粒剤など

※一部の箱処理剤は高密度播種に対応した処理量が登録されています。使用にあたっては最新の登録内容をご確認ください。

登録例)

高密度には種する場合は

1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1箱あたり 50~100g)

4. スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

年々被害地域が広がっています。密度の高い水田では5月上旬の移植後に被害が出やすい傾向にあります。薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除と組み合わせて対応することが重要です。

（1）耕種的防除

- ・田植え前にジャンボタニシの捕殺に努め、水田の取水口に5mm以下の金網やネット等を設置して侵入を防ぐ。
- ・ピンク色の卵は水中に払い落とす。
- ・水田の畦畔および用排水路の雑草を刈り取る。
- ・深水部分では被害が多くなりやすいので、丁寧に代かきを行い均平化を図る。
- ・稲4葉期までは4cm程度の浅水で管理して水田内での動きを抑制する。

（2）防除薬剤

薬 剤 名	使用時期	使 用 量	効 果
パダン粒剤4	播種前又は田植当日	60～100 g／箱	食害防止
	本田初期 (収穫30日前まで)	4 kg/10 a	
スクミノン	収穫60日前まで	1～4 kg/10 a	殺 貝（中貝～成貝）
ジャンボたにしくん	収穫60日前まで	1～2 kg/10 a	殺 貝（中貝～成貝）
スクミンベイト3	発生時	2～4 kg/10 a	殺 貝

注意)・貝が大きくなると防除効果は低下します。

- ・殺貝剤と食害防止剤の併用は互いの効果を相殺してしまうため、使用する場合は1週間以上空けてください。
- ・スクミノンとジャンボたにしくんは同成分を含むため成分総使用回数に注意しましょう。



ジャンボタニシの成貝（左）と卵塊（右）

5. 雑草防除について

除草剤は登録上の「使用時期」を確認してから散布するようにしましょう。特に初期剤は田植え前の使用時期【代かき後～移植7日前まで】を厳守してください。

（1）水稻除草剤使用上の注意点

- ア. 水田にどのような雑草が生えるか確認し、除草剤を選択する。
- イ. 田面がデコボコしていると効果にムラがでるため、代かきを丁寧にを行い田面の均平化を図る。
- ウ. 散布後3～4日間は水を切らさないようにし、除草剤の効果を安定させる。
- エ. 散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
- オ. 各薬剤の散布量を守り、薬剤を正しく使用する。
- カ. 軟弱徒長苗や極端な浅植えは薬害の発生を助長するため避ける。

(2) 薬剤の処理方法

ア. 比較的雑草の発生が少ない水田 ⇒ 一発処理による雑草防除

初中期一発剤を使って1回で防除する方法。「代かき～田植えまで」の日数を4日以内とし、田植え後10日以内に散布します。薬剤の使用時期を確認し、適用できるノビエの葉齢までに散布しましょう。

イ. 多年生雑草や雑草の発生量が多い水田 ⇒ 体系処理による雑草防除

初期剤と初中期一発剤（または中期剤）による2段階で防除する方法。雑草量が多い、または「代かき～田植えまで」の日数が空いてしまう場合などに行います。多年生雑草などは栽培期間中長期にわたって発生が続くので、防除効果の高い体系処理が必要になります。

初期剤

ダッシュワンフロアブル・ピラクロンフロアブル・メテオフロアブル・サキドリEWなど

初中期一発剤

サキガケ楽粒・サラブレットGO・ラオウ・バッチリLX・プライオリティ・カチボシなど

6. 適正な栽植密度の確保について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」は茎数が不足すると減収に繋がるので、栽植密度は18株/m²（60株/坪）とし、移植時期が遅い場合も極端な疎植は避けましょう。

「コシヒカリ」の場合は16～18株/m²（53～60株/坪）とし、植付が5月中旬～下旬の場合は施肥窒素量を減量し、栽植密度を15～16.5株/m²（50～55株/坪）にしましょう。

7. 田植え後の水管理について

晴天日には浅水で管理し、活着を促し早期に分げつを確保しましょう。また、低温や強風の場合は深水で管理し保温に努めましょう。天候を無視した深水管理は分げつを抑制するので避けましょう。

また、除草剤散布後3～4日間は水を動かさない、散布後7日目までは落水かけ流しをしないことが除草剤を上手に効かせるポイントになります。

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

本年は3月の気温の高低差が平年よりも大きく、一部作物では病害虫の発生がやや多くなっています。4月も継続して気温が高い予報が出ておりますので、害虫の急増、施設の温度管理には引き続き注意しましょう。

2. キャベツ・だいこん

(1) アブラムシ類

主にダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシ・モモアカアブラムシが発生し、葉裏を中心に寄生します。被害が激しい場合は、外葉から枯死し、やがて株全体が萎凋枯死します。高温・乾燥の天候が続くと急増するため注意が必要です。また、収穫物にアブラムシ類が紛れていると異物混入にもなりますので、収穫中にも十分注意しましょう。



○キャベツ アブラムシ類 防除薬剤

対象害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	4A	アドマイヤーフロアブル	4000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	28	ベネビア OD	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	29	ウララ DF	2000～ 3000 倍	収穫前日まで	2 回以内

○だいこん アブラムシ類 防除薬剤

対象害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	4A	アドマイヤーフロアブル	4000 倍	収穫 14 日前まで	2 回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	28	ベネビア OD	2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	29	ウララ DF	2000 倍	収穫前日まで	2 回以内

(2) コナガ・アオムシ

主に葉裏に寄生し葉肉を食害します。圃場確認の際は、葉をめくって裏まで確認しましょう。被害が激しい場合は、葉の葉心、葉脈のみを残して加害し、幼苗の場合は枯死します。乾燥条件が続くと多発するため、晴れ予報が続く場合には注意しましょう。

薬剤抵抗性の発達が非常に速い害虫です。同系統薬剤の連用・多用は避け、次頁の薬剤表を参考にしながらローテーション防除を行いましょう。



○キャベツ コナガ・アオムシ 防除薬剤

対象害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コナガ アオムシ	5	ディアナ SC	2500～5000 倍	収穫前日まで	2 回以内
	6	アフーム乳剤	1000～2000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	14	パダン SG 水溶剤	1500 倍	収穫 14 日前まで	4 回以内
	15	カスケード乳剤	2000～4000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内
	22A	トルネードエース DF	1000～2000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内
	22B	アクセルフロアブル	1000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	23	モベントフロアブル	2000～4000 倍	収穫 7 日前まで	3 回以内
	30	グレーシア乳剤	2000～3000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内
		プロフレア SC	2000～4000 倍	収穫前日まで	3 回以内
	34	ファインセーブフロアブル	1000 倍	収穫 3 日前まで	2 回以内
	UN	プレオフロアブル	1000 倍	収穫 7 日前まで	2 回以内
	11A	ゼンターリ顆粒水和剤	1000～2000 倍	収穫前日まで	—
	(BT 剤)	エスマルク DF (野菜類)	1000～2000 倍	収穫前日まで	—

<備考>

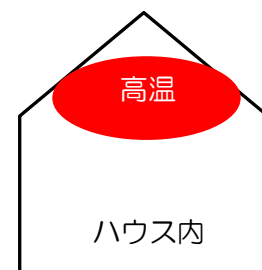
- ①同系統 (IRAC コード) 薬剤の連用・多用は避けましょう。
- ②ディアナ SC、カスケード乳剤、モベントフロアブル、グレーシア乳剤、ファインセーブフロアブルはアザミウマ類防除、パダン SG 水溶剤、モベントフロアブルはアブラムシ防除を兼ねます。
- ③記載薬剤のうち、モベントフロアブルのみに浸透移行性があります。その他の薬剤は浸透移行性がないため、かけムラにはより一層注意しましょう。
- ④BT 剤は若齢幼虫のみに効果を示すため、散布タイミングに注意しましょう。
- ⑤キャベツ以外の品目については別途登録内容をご確認ください。

3. トマト



(1) 高温対策について

- ①遮光資材の展張を行い、施設内の温度上昇を抑えましょう。
- ②換気扇を稼働し、施設内の空気を循環させましょう。ハウス内上層部は特に温度が高くなりやすいので、こまめな喚起をして温度の上昇を防ぎましょう。
- ③高温により土壌の乾燥・水不足が発生しくなります。障害果の発生を防ぐために少量多灌水を心がけましょう。



<高温時の薬害と作業時間帯>

農薬散布は朝・夕の涼しい時間帯に実施しましょう。散布後～完全に乾くまでに高温になるほど、薬害が発生するリスクも高くなります (一般的に 30℃以上が目安)。薬液が乾くまでの時間も含め、作業が完了できるよう注意しましょう。

(2) コナジラミ類

千葉県内では主にオンシツコナジラミ・タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れ被害に加え、トマト黄化病のウイルス (ToCV) を媒介します。また、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病のウイルス (TYLCV) も媒介し、近年問題化しています。

(3) アザミウマ類

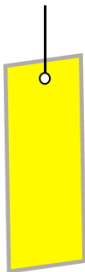
千葉県内では主にミカンキイロアザミウマ・ヒラズハナアザミウマが発生します。食害による葉の「シルバリング症状」、産卵痕による果実の「白ぶくれ症状」被害に加え、トマト黄化えそ病のウイルス（TSWV）を媒介します。コナジラミ類、アザミウマ類ともに薬剤抵抗性の発達が非常に速いため、薬剤に頼りすぎない総合的な防除を行いましょう。



タバココナジラミ成虫 ミカンキイロアザミウマ成虫

○微小害虫のポイント

- ①ハウス、圃場内外の雑草は害虫の発生源・増殖源となるため、除去しましょう。
- ②ハウスには防虫ネットを展張し、ハウス内への害虫の侵入を防ぎましょう。目合いは0.4mm以下が理想的ですが、施設内環境に応じて選択しましょう。また、下写真の赤色防虫ネットはアザミウマ類侵入抑制に有効です。
- ③ハウス内には粘着板（コナジラミ類—黄色、アザミウマ類—青色）を設置し、害虫の発生状況を把握しましょう。
- ④微小害虫は葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布は葉裏にも薬剤がかかるように行いましょう。



○トマト コナジラミ類・アザミウマ類 防除薬剤 マルハナ影響日数に注意

対象害虫	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コ	ア	コード			
○	○	4A	ベストガード水溶剤	1000～2000 倍	3 回以内
○		4C	トランスフォームフロアブル	1000～2000 倍	2 回以内
○	○	5	ディアナ SC	2500 倍	2 回以内
○		6	アフーム乳剤	2000 倍	5 回以内
○	○		アグリメック	500～1000 倍	3 回以内
○		9B	コルト顆粒水和剤	4000 倍	3 回以内
○	○	15	マッチ乳剤	2000 倍	4 回以内
○	○	28	ベネビア OD	2000 倍	3 回以内
○	○	30	グレースシア乳剤	2000 倍	2 回以内
※	○	34	ファインセーブフロアブル	1000～2000 倍	3 回以内

コ：コナジラミ類 ※タバココナジラミ類 ア：アザミウマ類

果樹（ナシ） 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

本年は、例年並みの開花となる可能性があります。暖かい気温が続き、生育の前進化が起こる場合、防除タイミングも前進化する可能性がありますので、気象情報や生育状況に留意し、薬剤散布適期を逃さないよう注意しましょう。

2. 4月の梨防除について

（1）黒星病芽基部病斑（右図）を確認した場合は摘除しましょう。

（2）長雨や強雨の影響で追加防除が必要な場合や、開花期間が一週間以上にわたる可能性がある場合は、トレノックスフロアブルを追加で散布しましょう。ただし、散布当日の受粉作業は控えましょう。

（3）ニセナシサビダニ対策が必要な園は、新梢の展葉後にモベントフロアブル散布を実施しましょう。なお、アブラムシ類防除に重点を置く場合、モベントフロアブル散布時期をやや後ろにずらすことも可能です。他方、アザミウマ類防除に重点を置く場合は、ハチハチフロアブルを散布しましょう。

（4）防除暦（4月部分抜粋）



時期（目安）		防除方法	使用倍数	備考
りん片脱落 終了後～ 開花直前	4月上旬	マネージDF	6,000倍	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症の防除のため使用する。 ・モンシロドクガ等の食葉性害虫対策は、ダイアジノン水和剤 34（1,000倍）を散布する。
		トレノックスフロアブル	500倍	
		ウララDF	2,000倍	
開花期	4月中旬	芽基部発病芽の摘除 （交配時に努めて実施）		・交配期間が7日以上にわたり黒星病の発生が心配される場合に限り、トレノックスフロアブル（500倍）を散布する。ただし、受粉当日の散布は控える。
受粉終了後	4月中旬 ～ 4月下旬	スコア顆粒水和剤 トレノックスフロアブル バリアード顆粒水和剤	4,000倍 500倍 4,000倍	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症の防除のため使用する。 ・チャノキイロアザミウマの発生が多い場合はハチハチフロアブル（2,000倍）を散布する。 ・疫病の発生が心配される場合はアリエッティ水和剤（1,000倍）を散布する。
	4月下旬 ～ 5月上旬	新梢展葉を確認後、 モベントフロアブル	2,000倍	

※時期は平年の目安です。防除の時期は生育状況に合わせて農薬散布を行いましょう。

※マネージDFやスコア顆粒水和剤はDMI剤（FRACコード：3）に分類される同系統の薬剤です。開花時期の重要な黒星病防除剤ですが、感受性低下の恐れが非常に高い薬剤でもあります。必要以上の連用・多用は避け、散布時はトレノックスフロアブル等の保護殺菌剤とあわせて使用し、耐性菌発生リスクを低減させましょう。